

平成24年度 第3回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成24年11月29日（木）午後7時30分～午後9時30分

【場所】市役所7階 701会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

谷 悟・千原 喜美・魚返 普子・川上 勝・白井 春夫・寶楽 陸寛・松村 千恵子・  
南 美鈴・山田 淳子・渡辺 正直

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

井上・内田・東畑

〈オブザーバー（公益財団法人河内長野市文化振興財団）〉

大久保

【配布資料】

- ・平成24年度 第3回 河内長野市文化振興計画推進委員会次第
- ・資料1 具体化のため 必要な基盤整備について（幹事会案）
- ・資料2 平成24年度第2回河内長野市文化振興計画推進委員会議事録
- ・ラブリニューズ他

以上

**井上課長**

こんばんは。また、お出掛けにくい時間帯にご出席いただきまして、ありがとうございます。さらに、本日、開催するにあたりまして、幹事会の皆様には事前に集まっていただき、ご検討いただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。前回8月末の委員会開催後に文化関係で取り組みました事業といたしましては、9月29日に開催致しました文楽、そして10月下旬から始まりました文化祭、こちらは昭和29年から今回で第58回を数えることになりました。そして、また、団体での動きと致しましては、これまで財団においては、舞台中心の展開を行なっておりましたが、より幅広い市民文化を兼ね備えた活動を行なっていくという趣旨のもと、河内長野市文化連盟の事務局機能を10月1日から移管しました。

本日は、事前に幹事会の皆様方に検討していただきました事案につきまして、ご検討いただけると聞いております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**谷委員長**

<資料1「河内長野市文化振興計画 具体化のために必要な基盤整備 幹事会案」について説明>

**谷委員長**

改めまして、こんばんは。前回、別紙資料2のように、皆さんから様々な意見を出してもらい、当委員会として何をしていくのかという骨格が明確になったと思う。つまり、文化振興計画を推進していく上での優先順位をつけることができ、まずは、このまちで芸術文化に関わっている人達を幅広い視点で見つけ出し、まとめ上げ、文化振興を推進できる基盤資料を整えることが急務であるように思う。この会議をふまえて幹事会で別紙資料1のように、わかりやすく手順も含めて整理したものを用意させていただいた。幹事会では、ギャラリーを会場としてお貸し下さっている南委員、積極的な議論をして下さる山田委員、川上委員、また、私とともに原案を検討して下さる宝楽委員には、多大なる協力をしていただいている。私からもお礼を申し上げたい。

**谷委員長**

本日は、資料1をベースに委員の皆様と討議を重ねたいと思う。まずは、調査対象の範囲、或いは、どういう人達をデータベースの中に取り込んでいくのかということについて、資料に記載してある内容を踏まえて、ご意見を伺いたい。資料で抜けている部分を指摘していただいたり、もっと踏み込んで意見を言っていただければと思う。また、実際には、実行委員会を組織して、その作業を進めることになるので、基本方針を、委員会の総意として、固める必要があると思う。それをいずれ、提言書にまとめたいと考えている。そこには、ただ、理念を書き連ねるだけでなく、まちの体温が感じられるリサーチをおこなうた

めの思考のプロセスをダイアグラム化したり、それを進める上で必要不可欠となるフォーマットのサンプルも作成し、すぐに動ける準備をしたい。また、このデータベースの活用方法、効果予測についてもわかりやすく提案したいと思う。審議をはじめるとあたり、宝楽委員、何かつけ足すことはありますか。

#### 宝楽委員

まず、具体的なものは、皆さんの頭の中にあるということは、委員会を通して見えてきたと思う。一方で、市民全体にとって、「文化が豊かだよね」と語る時に、この委員会を通して具体的な部分が必要だと思った。そのための基盤整備として、今までどおりの調査の範囲でなく、どのようにして血の通ったものにするかという意味でも、調査の範囲はとても大事だと思う。確かに、他市町村の状況を調べると、データベースという名の付くものはあるが、エクセル表で名前と活動内容が表示されるだけで、顔がわからないものが多い。そのようでないものを編集することが必要だと思う。そういう意味で、調査範囲をどう想定するか議論ができたらと思う。

#### 松村委員

一般市民の方が入っていただくのも素晴らしいことであるが、本市には、せっかく文化連盟があるので、そこにあつたていくのも一つの方法ではないかと思う。そこからでも、かなり情報があると思う。

#### 谷委員長

当然、文化連盟の方々には必要だと思う。既存の組織で活躍される素晴らしい人達も、あげていただいてもよいが、今までは、そのような情報が大半を占めているように思う。例えば、河内長野市文化振興計画策定委員会において現代アートを取り上げる発言があったようだが、現在まで本格的には扱われていない。現代アートと文化連盟の活動を融合してできるようなものやその他のユニークな市民文化にも注目し、様々な人達に取材をして、多様な芸術文化を息づかせるキーマンを把握できる素晴らしい出会いを創出することからはじめたいと考える。

#### 山田委員

アートをする人の方の調査も必要だが、企画する側の人、結構、河内長野には多くて、あちこちで、ひそかにされている方が増えてきた。そのことも、知ってほしいと思う。

#### 谷委員長

創作のみならず、プロデュースの部門も当然入れていきたい。ひそかに活動を継続している方に特に興味をおぼえる。神社・仏閣をステージとした活動もリサーチしたい。前回の

会議でも述べたかと思うが、エクセル表で作成した誰も見ない無表情なデータベースは作りたくない。わがまちで、ひそかに話題になっている文化スポットを集め、地図を制作したい。いわゆる市民文化の拠点やサロンの機能を展開しているラブリーホールとは別次元で、インディペンデント的な活動をおこなっている場にも光をあてれば興味をもってくれるのではないか。また、そのような場所同士がうまくコラボレーションできるような仕掛け作りができないかと思っている。

#### 魚返委員

神社・仏閣というのは、私達が思っているよりも、時を含んでいる。もちろん文化連盟のようないろいろ活躍されているところの情報を入れるのもよいが、歴史が深いところに、この河内長野 DNA みたいなのが潜んでいると思う。ふるさと DNA である。

#### 谷委員長

以前、このまちには、芸術文化につながる色々な人が住んでいると幹事会で南委員に教えていただきましたが、クレヨンをつくられた方のお話をいただけますでしょうか。

#### 南委員

長野町に西本茂さんという百歳を越えられた方がいる。クレヨンというのは混色できないが、サクラクレパスと協同研究し、混色できるクレパスを開発された。そのような方に、早く表にでていただかなければと思っている。

#### 谷委員長

文化連盟は先日、立派な記念誌も作られて、継続して活動されている。それだけでなく、私は、一回もやっていないことをやりたいと思う。

また、川上委員が、以前おっしゃったことで印象に残っていることとして、若い人がこのような文化振興計画に入ってこないという指摘があった。先程、宝楽委員が言われたように、以前、河内長野は結構栄えていたが、若い人たちは、堺東や難波に行く。しかし、河内長野で、あえてやりたいこと、河内長野だからこそ、出来ることを若い人達に対し、うまく打ち出していないといけないと思う。未来を担う世代に向かって、託し、ともに何かをやっていくことが大切ではないか。子ども達が興奮することをもっともっと仕掛けてみたい。それこそが河内長野 DNA を開花させることにつながると考える。

#### 川上委員

若い人達を強引でもいいから、この委員会に誘わないとだめだと思っている。ようやく入ってきたのが、宝楽委員の年代になる。将来どうするのかっていう話をする時に、若い人がいないということは、基本的に私は致命傷だと思っている。そのためにも、今活動して

いろいろな団体とか個人を含めて、私は調査の前にまず情報の整理をしないとイケないと思っている。例えば、宝楽委員のような、いきのいい若い人達を、我々は知らなくても、行政は知っているかもしれない。行政の情報網、行動力はすごいと思う。今、我々が、文化に携わっている人達、文化を享受しようとしている人達の情報を整理する時に、行政が持っている情報を開示してもらうことが大事だと思っている。例えば、生涯学習部だけが担当している文化事業だけではなくて、全く関係ない観光行政や林業関係の課が文化団体と関連して事業を行っていることがあると思う。行政の中で、全く想像しない課が文化団体と繋がっている現実が他にもあると思う。もちろん個人情報の問題があるため開示できる範囲があり、難しいと思うが、何十年も行政が積み重ねてきた情報網で集まっている情報を我々が活用できるすべがあると思う。「こういう団体があるよ」、「こんなことやっている人達がいるよ」、「こういう人達が求めているよ」、という情報を整理することも非常に大事な作業だと思う。それをやりながら、市民レベルは市民レベルで皆さんやっていく。当然、数珠繋ぎでやっていくことももちろん大事だが、そこもやらないと最終的にこれは一つの市民のパワーをどれだけ結集しようが、物事を動かしてムーブメントをおこしていこうと思うと、行政の力を借りないといろんな意味で、出来ないと思う。そのためにも、その情報を活用する場を今以上にどんどん作っていかないとイケないと思う。

ただ単に、毎月送られてくる市の広報紙を見ても、知らないことがあちこちでいっぱいおきている。この情報って誰が把握しているのかと思う。その情報がどういう結果をもたらして、どういうムーブメントおこしているかというところまで、やっぱり情報を出す側としては責任をもたないといけないと思う。そのようなことをしていくことによって、お互いが繋がっていけるし、情報交換もできる。大変だが、それをするためには、行政の力も借りないとおそらく出来ない。整理をした上で調査として最終的にまとめることで、非常に有意義な情報が集まってくるのではないかという気がする。

#### **谷委員長**

今のお話は極めて大切であると思う。私はこの夏、大阪芸術大学のチームで滝畑においてアートエデュケーション・プロジェクトをさせてもらった。ふるさと文化課のみならず、産業活性化室や農林課など、いろいろな部署の方に協力していただいた。改めて、行政の協力の必要性を再認識した。当委員会として提言書をまとめる際にも、色々な協力や何かの糸口を頂ければと思う。

#### **井上課長**

川上委員にご指摘いただいた若い年代の委員について、当課としても課題となっています。また、現在、財政状況が厳しい中で、来年度予算のヒアリングで委員数の削減を求められています。委員数については、今後、文化振興計画の評価業務もおこなうため、そのような力を持つ人が必要になるため、削減要請を断ってきたところです。また行政における文

化に関する情報を私たちの課が横断的に把握しているわけではないので、庁内調査というのも必要になると思います。その中でいろんな人を見つけれられるかもしれない。一方、行政での委員会における若い年代の委員については、宝楽さんのような有能な方は、いろんなところで委員会にでていただいて、他に若い人はなかなかいないのが現実で、なかなかつかみきれないし、参加してもらえないという課題を行政としても持っています。また、どの委員会でも同じメンバーだということがあり、数年前からは年齢制限を設けたり、あるいは委員会に何ヶ所以上も属さないように、徐々に変わってきています。それまではどこへ行ってもほとんど同じメンバーで委員会の名前だけが違うということが多々ありました。そういうことをなくし、多くの人から意見を聞き、若い人の意見を聞いていこうということで、年齢制限やいろいろな取り組みが始まっています。

#### 千原委員

河内長野市国際交流協会が、設立20周年を迎えた。私も1992年の最初に入った時からいるが、当時40代で、その年代の人もたくさん来ていた。今は40代的人是少なく、60代の人が多い。

#### 山田委員

本市は、学生の町ではない。京都は美術系の学校が多く、河内長野市からもたくさんの学生が通っている。そして向こうで活躍している。その子達が成人式には帰ってくる。世界民族音楽祭のスタッフを見たら、みんな同じぐらいの年に見えるが、当日だけに終わらせないで、そういうノウハウをこういうところに生かしてもらえたらいいなと、すごく思う。

#### 川上委員

裁判員制度みたいにしたらよいと思う。私は国体に関わったことがあるが、そこでは拡大委員会といってアイデア会議を開催する。教育委員会の運動系の各理事が出席するが、その中に現役の高校生を入れないといけないという条件がついている。男女最低2人。多いときは4人。来ている子は、最初、周りが年配ばかりですから、緊張しているが、彼らは競技する立場で発言するが、これが結構、的を射ている部分がいっぱいある。実は、あれはすごいって、納得していると思うが、それを大人は、なるほどとなど絶対言わない。今は仕事で外に出ているが、外で学んでいるが、生まれ育った市、まちのためにかかわる義務があるというアピールの仕方をすれば、10人にあたれば、10人が0人とは思わない。人口比率で見ていると千人ぐらいしかいないと思うが、千人いたら何とかなるでしょう。それはやりたい、やるべきだと思う。

#### 魚返委員

私の中2の時、学校から2人、大人の会議に出させてもらった。なぜ私が選ばれたのかわか

らないが、男1人、女1人行って、良いことか悪いことかわからないが、いろいろなことを発言した。その時、市内に高校がなかったので、河内長野市に公立高校をとという提案をしたら、投書欄も何もないのに広報にわざわざ投書欄を作って、その私の作文を載せてくれた。そういうことって、何十年たっても、鮮明に覚えていて、きっとそういうのがあればいいと思う。

#### 山田委員

だから、震災の後で大槌町が、ひょっこりひょうたん島を再建するときどういう灯台を作ったらいいか、子どもに夢を書かせていたが、そのような聞き取りがいると思う。それでまちづくりの方では、山崎先生を呼んで、いつもワークショップしているが、そういう視点も借りる必要がある。子供の意見、将来やっぱり住み続けたい、帰ってきたいと思えるようなもの、河内長野に帰ってきて何をいいなと思うかということ、それは、自然とやはり芸術性だと私は思う。

#### 川上委員

河内長野で結婚して住んだら補助しますという、河内長野市新婚世帯家賃補助金について補助する代わりに委員会にできる義務やまちづくりのために貢献してもらうなど、一項目作ることが必要と思う。

#### 山田委員

市長が正月に対談する企画では、一回でなく、具体的に提言するぐらいの必要があると思う。

#### 松村委員

この前、パーマ屋さんに行ったら、散髪しながら女の人が喋っていて、河内長野は文化の話をする人が多いですねって言われた。

#### 魚返委員

大阪市内の方だが、町の真ん中だったら、救急車や消防車、泥棒の話など一変に話が盛り上がるらしい。河内長野は来る人、来る人、公民館まつり、文化祭とかそんな話ばかりしているとされた。

#### 松村委員

基本的にこの街は昔から文化に触れる機会が多く、文楽をここで催し、太夫さんがおられた。それぐらい文化が高い街と思う。

これは自信を持たないと。日野の獅子舞とかもある。あれはすごく有名なお祭りである。

#### 宝楽委員

今、子育てする環境をやりやすいようにしましょうという子育て支援というのが広がっていると思う。確かに、それは女性がすべきみたいな時代があった中での現在だと思う。子育てしやすい環境だけにすると、お母さんがお客さんになる。それはお母さん達が住みやすいから住んでいる可能性もあるが、その街に対する愛着って湧きにくいと思う。そういうことは大事だが、子育て支援をする概念としてやっぱり子供達が育つ環境をつくるために、お母さん達が子育てしやすい環境を作るというのが必要と思う。また、若い人がこないといけないと言うが、若い子になぜボランティアをしないのかと聞くと、バイトや学校、試験で忙しい、遊ぶお金を稼ぎたい、携帯電話のお金を自分で払わないといけない、ボランティアや街のために何かしたいが時間がないと言う。つまり、皆さんも選択肢の中で優先順位をつけていくように、若者も優先順位をつけている。若い人は意見を求められて意見を言うが、結局採用されないとか、若い子にチャンスをと言うのであれば、言ったことをちゃんとやらせてあげないといけない。一方で、若者を自由にさせたら彼らは卒業していく。私は、河内長野が好きと言い続けて、いろいろな出会いがある中で、育ってきているが、それは、充実感や達成感があるから関わっていると思う。だから、若い人が来てくれるようなポップで楽しいものという基準よりも、河内長野ってこういういいところがあると語れることが大切であると思う。先程 DNA って言葉があったが、DNA って自分らしさとか、自分を説明するって意味もあると思うが、自分達のまちを語れる要素があるというのは大事だと思う。しかし、今、大事さとか、河内長野のよさとか知る機会がない。誰か語ってくれる人、家におじいちゃん、おばあちゃんがいたら、多分、すごい良さってわかると思う。だが、多くの若者にとって、河内長野で10代、20代の人達は多分ニュータウン的に育ってきているというか、やっぱり便利なものとか、ファミレスに行った方が、おいしいもの食べられるし、簡単に食べられると思う。河内長野においしいものがあるのに。それを語れる環境をつくるどころが重要だと思う。だから調査が大事だと思う。さらに、見せ方、どう見せていくかが重要で、そういう意味では、文化連盟の人を順番に進めていくのではなくて、編集して出していくという考え方はすごく大事だなと思う。例えば、堺で秋の文化財公開、「へうげもの」というアニメがあり、聖地巡礼といい、若い人達はその漫画とかアニメに出た土地を見に行く。そこには、若い人達に連れられた人達が来たりする。それは「へうげもの」というキーワードできっているから、若い人が注目していると思う。やはり、このように再編集していくということをしていたら、自然にこういう情報を集めるのに協力したいとか、若い人が引っ掛かってくると思う。

#### 宝楽委員

この前、高野街道まつりがあったが、あの時、酒蔵どおりで、酒蔵の方達が中心になって若い人達を集めて、手作り製品を売ったり、河内長野市内のスイーツを出しているお店を

集めてきたりしていたから、あのエリアは若いお母さんとか、ベビーカー押した人が来ていたと思う。一方、商店街の方に目を向けた時に、そこには、その土地の人というか、昔からいる皆さんがいるイメージで、編集で明確に分かれていると思った。自分達が入っていきやすい切り口で情報が提供されたから、酒蔵に行ったと思う。いつもは酒を寝かせている蔵だが、酒を造る前の期間は空いている。そこで、音楽を鳴らしてマッサージしている。このような所に入る機会がない若いお母さんにとって、いい経験になったと思う。そういう見せ方、切り口を提供するための素材づくりが大事だと思う。古くからあるものすべてをよしとするのではなくて、市民文化的なものを出していく、その基準をどう作っていくか、もしかしてアーティストという意味では、オーガニックマーケットで子供のよだれかけを作っている普通のお母さんもアーティストかもしれない。そのレベルをどこまで広げるのか、みんなが入っていきやすい、すそのを広げるのは大事だが、幅をどこに持つのか最初としては大事だと思う。グラフで書道をやっている人が人口の何人占めますと言われても、分かりにくいけど、その書体を書いている人がすごく、それがどう響くのかという調査基準は大事だと思う。若い人が来て欲しいからって、若い人が来やすいように基準を下げるのは間違えていると思っていて、イベント的に一時は来ると思う。しかし、一緒にやって、この人は信じられる仲間って100人いたら10人も集まらない。若い人もイベント的には集められるが、長期的に企画とか、プレゼンテーションとか、一緒にプログラミングしてくれる人はなかなか育たない。キャンプをやって1年間、200人、300人やっても、10年、20年やってリーダーになってキャンプを一緒にやってくれる後輩は、1人か2人しか残らない。だから、みなさんが大切にしてきた基準を大事にしつつ、入って来られる入口をどう作るかだと思う。

コミュニケーションする範囲を家や友達の範囲で止めているのか、こういう場に出て来て、喋る機会、接点があるかどうかだと思う。

#### 川上委員

声をかける側の理由が明確になってないということがあると思う。例えば、若い人達をこの委員会のメンバーにということについて、私は、こういうこともある、こういうしんどさもあるみたいに良い事も悪い事も言う。なぜなら皆さん、この時間に合わす為に、日々の生活の中で、時間や仕事をやりくりして、ここに来ている。自分に与えられた責任を全うしようと思って来ている。自分達が思っていることをみんなに知らしめるということがそこから始まる。そういうムーブメントを起こさないことには、密室の委員会になる。答申案を出したところで、これはそこでボツになる。だから、私はそうじゃなくてもっと広げるべきだと思う。これが、まず1点です。それと、見ないとものを言えないと思っているので、この一年間、河内長野のイベントをいろいろ見に行っている。いつも思うが、統一性、つまりテーマがない。今おっしゃったオーガニックショップとか、いわゆる手作りショップは、何も高野街道まつりじゃなくてもいい。その店を出すためにどういう統一さ

れたテーマがあるか。河内長野にしかない素材を使っている店が作り方、製品をいろんな見せ方を変えて、ここに揃えていますというのであればわかる。堺や大阪市内に行っても売っているものが、ここに来ているだけの話だと思う。そういう方法もあるので否定はしないが、高野街道まつりと言った以上は、高野街道とは何だということを押さえ、そこで統一されたテーマがないと、物事っていうのはまとまらない。それぞれが動いているエネルギーがものすごくもったいない。これがうまく統一されて、並んだときにもものすごい力を発揮すると、私は確信している。そのバラバラになっているのをどうやってつないでいくのか、誰がやるのかということを考えないことには、恐らく回数が続いていかない。

#### 宝楽委員

あそこの酒蔵通りのスイーツフェスタは、すごい極少数のグループでやっている。社長の西條さんや40代ぐらいの子育て中のお母さんと、デザイナーの2人で、河内長野市内のお店を回って集めてきている。あのエリアを作るにあたっては、ちゃんとコンセプトを作って、そのデザインが出来る人、東京でデザイナーの仕事をしていた人と組み、設計して、あのようなコンセプトが出来て実現した。それはコンセプトの設計にあたっては、子育てしているお母さんと当事者の意見もマーケティングもしていたし、求められているもの、難波に行けばあるものを河内長野で体験出来ることは、お母さん達にとってはすごくありがたいと思う。ベビーカーをひいて難波まで行くのと、河内長野で体験出来るのでは、やっぱり違うと思う。そういうニーズがあるということを顕在化した点にあのイベントの意味があったと思う。このイベントの作られ方も、河内長野の文化という切り口で、こういう声があるから市民の文化として、あのようなオーガニックマーケットも発信することによって、今まで通り、惰性の中で順番にお祭りの実行委員長やってきたみたいなものとは違う設計のされ方をしていることは、ワンステップ上がっていくと思う。ただ、高野街道まつりは、いろんな主体がかかわりすぎていて、あのまつりにテーマ性を持ってコンセプトを作るのはすごい時間がかかると思う。それだったら、あのように少しずつ改造していくっていうことも、僕は大事だなと思う。

#### 川上委員

ショップを出した時に、これは絶対考えないといけないのは、仕掛ける側、当日、物を売る側は収益を上げており、消費者に対して安全を守るという責任がある。あの狭い通りで、あれだけテントを前に出したら、お客さんが溝にはまるぐらい狭くなる。安全について、それだったらまずいから、テントをやめて片屋根みたいなものを考える必要がある。それをしないで、物を売って利益を上げるということが問題である。けが人が出なかったことが奇跡と思わないといけない。

#### 宝楽委員

若い人が集まらない最大の理由はいろんなことを言う大人が多すぎると思う。私は、高校時代からずっと、河内長野やいろいろなお祭りにかかわってきているが、まず、会議にがっかりした。意見を言うことに対して、黙っておけ、決まっているみたいな空気が感じられた。ある会議で、納得していませんって言ってしまったことがある。その時は空気を読めていなかったからすごく残念だった。今はそんなことは絶対言わないが、その合意形成の語り方についても、コンサルタント会社がまとめたことになっていて、そこに自分らしく生きようって、あなたの意見が聞きたいと言うが、若い人には真意が伝わりにくいと思う。

文化調査する時に、伝統文化をすごく大事に守ってきている人達に、「聞かせて下さい、こんにちは一」って行って、聞かせてくれる訳ないと思う。そこにはすごい歴史を積み重ねてきた、すごい真剣にやっているというポリシーやそれだけ真剣にやらないといけないというすごく厳しい現実もあると思う。データベース化するには、そこも見据えないといけないが、一方で、いろんな事を言う大人が多すぎる。

今40代の女性の人が、かつてK I F Aを立ち上げたパワーのある世代が、今度はオーガニックマーケットみたいな形で現れてきている。今、市内で、同じぐらいの世代の人が、未来ポシットって言ってこのようなフリーペーパーを年間2回、出している。

#### 川上委員

そのことと、オーガニックショップと客の安全とどう考えているのか。  
客の安全を守りながら、やっている人達がいる。

#### 宝楽委員

今回の計画で、次のページに載っているプロデューサーに関わってくると思うが、結局、自分達がやりたいことを実現する時に、何をしたらいいのかも学ぶ機会がない。それを教えてあげないといけない。教えてあげることによってお客さんが来る。今回、やりきったという意味では、そこも評価していかないと、河内長野は変わらないと思う。

#### 川上委員

若い人が集まったことは評価する。しかし、集まっているという事実と、ひとつの物事を進めていく時の手順、ルールとは別の問題と思う。

#### 川上委員

この会議では、河内長野に住んでいる人達、もしくは、それに関わっている人達で、やっていこうということを話している。自分の街に住んでいる人達でやっていく必要がある。警備や他のことも地元でやろうと思えば出来る。やらないだけの話である。手順がわからなければ、わかる人に聞き、やっているところに行って学ばばいい。それをしないで、機

会がない、チャンスがない、人の話を聞かないってことは問題である。

#### 宝楽委員

ないから、やってなかった状況と、ないけど、自分達で出来る範囲で作っていこうという方向と、その違いは大きいと思う。自分達の街は、自分達、市民が作っていかないと変わらないという気持ちがやっとでてきたと思う。

そういう声は、大事にしなければならないと思う。

#### 川上委員

高野街道まつりに人が集まったということは事実だから、それ自体は、否定してない。しかし、高野街道まつりと名をうつ必要があるのかどうかということも含めて、それをいい形で継続していくためにはどうするのか考えないといけないと思う。例えば、お客さんの安全、テーマの設定、統一されたイメージについて、また、高野街道と高野山の関わりについて検討する必要がある。そこに出店して、そこに駆けつけた人達を否定しているわけではない。しかし、テントを広げたら、これだけ軒が前に出て、通行できない状態になるかということ誰かがわかっている筈である。テントを建てる人は少なくともわかっている。何故それを危険だということ避けるなり、やめるなりということを考えなかったということが問題である。その点について検討しなければ、まつりも継続していけない。だから、実現するところまで、こぎつけた人を否定しているわけではない。それをよりいい方向に育てていくためには、固めなければいけない周りの条件がいっぱいある。その中に、誰もが気が付く条件を何もクリアしてない。それが危険であると言いたい。

#### 白井委員

調査対象の範囲や対象ジャンルについて、地域文化を追記ほしい。地域文化というと、景観や地域の祭りや田畑もあり幅広い。例えば地域文化で、一つ例をあげると祭りがある。祭りといえば、地車であり、彫刻でもあり、いっぱい文化があり、自治会や青年団に関係していて、派生的にいろんなルートができる。

#### 谷委員長

確かに、地域文化の振興という言葉がある。

#### 白井委員

だから、いろんなところに繋がっていく、広がっていく。

#### 山田委員

ハイアートとか、市民文化とか、いろいろ言い方があり、イメージが統一されていないの

で、その言葉の定義をもっと具体的にする必要があると思う。

#### 松村委員

私はお友達に手紙出す時に、80円切手は、河内長野市の名所が印刷された切手を貼っている。少し高いが友達も順番に替えて送る。しかし、私がそれぞれの場所への行き方を知らない。地域文化を探ることについても、河内長野を何分割かして、有名なお寺とか、文化、民族性、いろんなものを区切って知らせれば良いと思う。このまちに住んでいる方も、あまりいいところを知らない場合も多いので、そういう地図があればよいのになあと願っている。

#### 谷委員長

調査対象をはじめ、他に何か意見はないですか。

#### 渡邊委員

タイムスケジュールとしては2014年度の予算措置のために、提案書を出すというのは一つの目的と思う。その中で、例えば、どれぐらいの額を想定しているか、それによって活動の内容が決まってくる。行政は特別なことがない限り、前年度の数パーセント減とか、数パーセントプラスだという査定の仕事が多い。その予算をどのように使っていくかを考えることは、この委員会での大きな役目だと思う。どこにスタンダードがあるかっていうのを、それを決めていく必要があると思う。

#### 谷委員長

予算は市から計上されたものをしっかりと吟味する必要があるが、それのみでなく、助成財団に申請したり、地域の企業に協賛、協力をお願いするある方を考えることが大切となるだろう。しかしこの厳しい時代では、なかなか、財源を確保することは難しいことが予測できる。

#### 渡邊委員

もし、お金を確保したとしても、文化は持続しないんですよ。もらった時だけ、バーンとやる。だが、それ以外はお金がないからしないという形になるから、永続しようと思ったら、もっと基盤の部分で支えていかないとだめだと思う。

#### 渡邊委員

今の伝統を守っていくとか、伝統文化を保持する文化を守るのであれば、公的なお金を使っていくべきで、自分が享受するのは、自分のお金で楽しまないといけない。その代わり、

お金をもらった方は責任がある。やっぱり市民がここに住んで、あんまり移動しないでも、今の文化を享受できるというのは求めていると思う。ここで聞けるっていうのは、まさに高齢化社会という社会背景があり、電車に乗って移動しないといけない大変さもあり、そこに行かなくてもすばらしいアーティストの作品を鑑賞できることは、文化生活に非常にカンフルになるのではないかと考えている。地元の文化を永続していくことは、住んでいる人達が文化をどう享受しながら、毎日生活をしているかに係わってくると考えている。

#### 渡邊委員

今日のデータベースの件にしても、予算の額を概算でも想定して、その上で、どういうふうに使っていくか考える必要がある。本当によい情報を得ようと思ったら、我々の力だけでは無理と思われるので、しっかりとしたウェブ会社をきっちり抑えて、自分達が精査できるような内容のものをつくっていく。それを市が出来ないのであれば、私たちの方で、お手伝いすればよいと思う。

#### 谷委員長

おそらく、現状では、少額の予算がつけば良い方だと思っている。作業は実行委員会で展開していくことが基本で、実際にデータベースをサイトなどで見られるようにするには、私達のネットワークを用いて、レベルが高い人に特別価格でプログラムの構築等をお願いすることが考えられる。

#### 宝楽委員

そういう技術を持っていて、大学に行きながら勉強をしている人がいる。そういう人材を活用すれば、コストを抑えられる。私も NPO のデータベースを作ったりしている。それはお金を払って作っているもので、そういう 1 回作ったものを回すと、開発費を抑えられる。そういうことはアドバイスが出来ると思う。

#### 谷委員長

なかなか前途多難だということは、よくわかるが何かを始める必要がある。

#### 谷委員長

仕事を依頼する場合は、予算計画書が必要になるが、まだ、不確定なことが多い。市の予算についても、どれだけ、ベースが確保できるか、わからない。だから、内容が本当におもしろいということになれば、地域の方達にも支えてもらえるようなドネーションシステムも併用していかなければなるまい。そのようなことをお願いしていくためにも、きちんとした骨格ぐらひは委員会で検討していく必要がある。

#### 谷委員長

最後に、先程も少し話が出たが、高野街道まつりの件に関しても、ごった煮と言うのか、例えば、いろんな物を売ったり、展示をしたり、上演をしてもいいと思うが、高野街道が、聖地である高野山と俗世間を繋ぐ道という当たり前の認識が弱いまま、イベントを催しているところが気になる。高野街道における河内長野の位置付けがあって、いろんな人たちが行ったり来たりしたパッサージュとして、道はどのような意味を持っていて、如何なる役割を担ってきたのかということなどに、もっと、焦点をあてるべきだと思う。高野街道の意義をまず、整理し、河内長野の今とクロスさせるやり方が得策だろう。この場所でなければ成立しないサイトスペシフィックな取り組みが大切であり、それをふまえれば、どこでもあるような市民まつり的な催事とは異なるものに仕上がると思う。きちんと、テーマを設定した上で、プロデュースすればより素晴らしい事業になったのではないか。かなりの集客数を得ることができた、河内長野市民の文化に好奇心を抱く事実、河内長野の潜在的な底力をもっと活かす道を模索すべきだろう。

#### 川上委員

その街道町というのは、まちの歴史だと思う。街道があるっていうことは、そこに当然、宿場があり、人が来るっていうことは、情報を運んでくるわけだから、情報最先端の町である。そういう歴史を脈々と受け継いでいると思う。

#### 谷委員長

今回は、1月末、そして、もう1回は、3月末ぐらいに開催する予定で考えている。また、相談して日時を決めさせていただければと思う。次回も幹事会で今日の議論を集約、検討した案をまとめたいと思う。

皆様、ありがとうございました。